



Discover a New
World of Service

見つけよう
奉仕の新生面



会長 川村徳男 幹事 迎田 稔 クラブ奉仕 山口篤之助 職業奉仕 佐藤 忠 社会奉仕 吉野 勲 国際奉仕 新穂光一郎 青少年奉仕 藤川享胤

出席報告：会員 74 名 出席 61 名 出席率 82.43% 前回出席率 78.38% 修正出席 69 名 確定出席率 93.24%

四つのテスト

- ① 真実かどうか？
- ② 好意と友情を深めるか？
- ③ みんなに公平か？
- ④ みんなのためになるかどうか？

職業奉仕 四つの反省

1. 顧客に対して：
 - 最上の品質、最高のサービスを提供しているか
 - 常に正直と親切を旨としているか
2. 従業員に対して：
 - 彼等の長所を十分に認めかつ買っているか
 - 安全で快適な職場を確保しているか
 - 苦情に対して公正な態度で対処しているか
 - 自ら誠実、正直、善意の手本を示しているか
3. 競争者に対して：
 - 公正な態度で接しているか
 - あなたは、行動をもって誠実を感銘させているか
 - 彼等とともに事業水準の高揚につとめているか
4. 協力者に対して：
 - 公平でしかも友情にみちた関係を保っているか
 - いつも支払をよくしているか

会長報告

川村徳男君

1. 市の体育館前の四つのテストの碑は、現在地に復旧するよう菅原辰吉さんから市教育委員会に申し入れをして頂いた結果、その通りに復旧しておりましたので報告します。菅原さんどうもありがとうございました。
2. 元会員の白井重鷹さんが25日死去されました。白井さんは昭和43年6月11日から45年3月23日ま

での約1年9ヶ月正会員として居られ、その後鶴岡市長として名誉会員でクラブの発展に寄与されました。まことに惜しい人を亡くしました。葬儀は29日ということですが、クラブを代表して哀悼の意を表して参ります。

幹事報告

迎田 稔君

- 山形R.C.、山形西R.C.、鶴岡西R.C.会報到着、回覧中です。

ゲストスピーチ

「タキタロウ」について

鶴岡市立第一中学校 梅木 壽雄 先生

大鳥池（湖）の伝説

1. 概要
 - 新潟県境、朝日連峯以東岳（1771 m）のふもと



ブナ林の原生林につつまれた垂高山湖、古くは藤之池と呼ばれていた。

同池の成因は山形高校教授、故安斉徹氏によれば、大規模な山崩れによる堰止湖が有力である。(以前は断層陥没説)

現在の湖面標高 852.5 m、面積 0.408 km²、深度は 50 m ~ 65 m (最大水深 68 m)、湖岸線延長 3.2 km で、わが国ではめずらしい花崗岩地にある湖である。

2. 幻の怪魚? タキタロウについて

長年、神秘的に同池の主として語りつがれてきた。一般的な言い伝えによると、体長 7 尺 ~ 1 丈の怪魚、龍太郎とも竹太郎とも言われてきた。村人の間では、口は三つ口で兎に似ているとか、尾びれが大きくて、まるで農作業に使う「ミ」のようであったとか、下あごがめくれ上っている、体表をおおうアブラが厚くて、焼くとそれが焼えるだけで、肉はうまく焼けないなどという話もある。尾びれの形は三味線のバチのように末端が平らで切れ込みがないし、肉は赤味、美味であり、体の表面はぬめり、茶褐色でナメコ色と言う。

学問的な分類では、既知のイワナ、アメマス(エゾイワナ)、ヒメマス、イトウなどには入らない別種の魚ということを主張する地元の方が多い。タキタロウは、他の魚の名を冠することはできず、あくまでタキタロウとして分類すべき別種の魚類と考えているのである。

— 以上「大鳥池調査報告」より 昭58.2~刊 —

○昨年 9 月 13 日 ~ 17 日、第 1 回大鳥池調査の科学的な学術調査に基づきタキタロウ捕獲を企画したが成功しなかった。本年も昨年とほぼ同一メンバーによる調査団で 9 月 21 日から同月一杯をメドに学術調査に取り組んでいるが、村人、あるいは地元の小学生の作文では、このままそっとしておいて

伝説の魚のままの方が良いとの声が大である。

スマイル

小池 繁治君) 海外視察より無事帰国して。
内山 喜一君

ビジター

今回はなし

クラブ年次総会

会長 川村 徳男 君

1985 ~ 1986 ロータリー年度の役員選考について
選考委員として

新 穂 光一郎 君
中 江 亮 君
内 山 喜一 君
川 村 徳男 君
佐 藤 順治 君 (次期会長エレクト)

5 名が選出されました。

ロータリー用語便覧 (14)



予 算

ロータリー・クラブ
の予算と国際ロータ

リーの予算の二つがある。前者はクラブ理事会の作成、または作成させて承認する。理事会が承認を議決すると、その後別段の決定が行なわれない限り、それがその年度支出の限度となる。

国際ロータリーの予算は、毎年、理事会の任命する財務委員会が原案を作成し、理事会の検討や必要な修正を経て、採択ということになる。採択された支出予算は支出の限度を示すもので、理事会が別段の決定をしない限り、支示超過は許されず、むしろ可能なかぎりの節約がのぞましい。

(今週の担当者 福島 三郎)